

小松市重点目標

未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

授業の質的改革 → 資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業（思考力・記述力・発表力）
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

組織的な体制・環境づくり → 児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

令和6年度 学校評価重点計画

小松市立向本折小学校
学校長 中出 安彦

目指す児童生徒の姿

「つよく やさしく かしこい子」

- つよさ 真の強さをもった子に
- やさしさ すべての人にやさしい子に
- かしこさ みんなでとことん考える子に

（1）学校の課題

①学力向上

学力調査の結果から基礎・基本及び思考力・判断力・表現力ともに大きな課題があり、児童に力をつける授業改善と、学習意欲を高め、主体的な学習態度の育成が急務である。

②児童の活力を生かした学校づくり

本校の児童のよさである活力を生かすためにも、すべての教育活動で「生徒指導の4つの視点」を意識し、安心安全な居場所づくりや一人一人のよさを引き出し、認め、伸ばす教育を推進していくことが必要である。

③教職員の組織的対応と働き方改革

個別対応を必要とする事案が多い中、教育の質を確保するには働き方の工夫が求められる。そのために教職員間の協働性を高め、万事組織的に対応していくことが必要である。

（2）具体的な方策と検証

- ①学校研究を通して児童一人一人に力をつける授業を追求し、検証する。
- ②児童会をはじめ児童主体の活動を設定し、仕掛けて、やらせて、認める場をつくる。
- ③職員間の情報共有やコミュニケーションを増やし、目的や方向性を共通理解しながら職務を進めていく。